

# アメリカの図書館は コミックをどのように組織化しているのか

How Comics Are Organized in American Libraries?

HASHIZUME Akiko

橋 詰 秋 子

短期大学部図書館学課程准教授

## 抄録：

アメリカンコミックや漫画といったコミックの「図書館における資料組織化の問題」を取り上げる。本稿は、コミック活用の面で日本の先を行くアメリカの図書館界における様々な議論を整理する。関連する文献を調査し、コミックの組織化にはどのような課題があるのか、いかなる組織化手法を取るべきと考えられているかについてのアメリカの図書館界の知見をまとめる。

## Abstract：

The issue of the organization of comics, including American comics and manga, are addressed. We summarize discussions of this issue in the American library community, which leads Japan incorporating comics into library activities. This paper surveys the relevant books and journal articles and summarizes the findings of the American library community on the problems arising in organizing comics and the cataloging methods they consider should be followed.

キーワード：図書館、情報資源組織化、コミック、アメリカンコミック、漫画、分類、目録法、アメリカ合衆国、目録データ

Keywords：Libraries, Information organization, Comics, American comics, Manga, Classification, Descriptive cataloging, United States, Cataloging data

## 1. はじめに：アメリカの図書館におけるコミック

2022年現在、アメリカの図書館の多くはコミックをその活動に積極的に取り入れている。アメリカ図書館協会（American Library Association: ALA）の下部組織であるヤングアダルト図書館サービス協会（Young Adult Library Services Association: YALSA）は、コミックの一種であるグラフィックノベルを対象に、毎年、10代向けの優秀作品ベスト10を発表している<sup>1)</sup>。オハイオの公共図書館員であるPhoenixは、2020年に発表した著書の中で、ほとんど全ての公共図書館とかなりの割合の大学図書館がコミックを所蔵し利用者へ提供していると述べている<sup>2)</sup>。

しかしながらコミックには、アメリカ社会において、1930年代の誕生から「低俗な読み物」「未熟な子ども向け文化」とみなされてきた歴史がある<sup>3)</sup>。1940年代から50年代のアメリカ社会は、コミックに対して強い批判の声をあげせかけ規制運動の対象とした。この時代の図書館員はコミック批判の先頭に立つことが多く、コミックを図書館コレクションに含める価値のない資料と捉えていた<sup>4)</sup>。このような図書館員の認識が変わったのは1990年代以降といわれている。実際、1998年には、コミックが特殊コレクションとして徐々に図書館に受け入れられるようになったという報告がされている<sup>5)</sup>。21世紀に入ると、コミックは（特殊コレクションではなく）一般コレクションの一部として図書館に所蔵されるようになる。椎名は、図書館が一般コレクションの中にコミックを受け入れるようになったこと背景には、2000年代に起きたグラフィックノベルのアメリカ社会への浸透があると述べている<sup>3)</sup>。それまでマニア向けの専門書店でのみ販売されていたコミックが、グラフィックノベルの浸透により一般書店で販売されるようになったことで、コミックの社会的なイメージが向上し、それが図書館での所蔵の一般化につながったという指摘である。

アメリカの図書館員や図書館界がコミックに資料的価値を認めるようになった、最初のきっかけは何か。それは、1990年に刊行された図書 *Comic Librarianship*<sup>6)</sup> だといわれている<sup>4)</sup>。ミシガン州立大学の図書館員 Scott による同書は、コミックを利用者ニーズの高い重要な資料として位置付け、その選書、収集、組織化、保管、提供に関する実務的な手法を説明した<sup>6)</sup>。同書の中で Scott は、コミックには他の資料と異なる特性があり、図書館はその特殊性に配慮してコミックを扱うべきだと繰り返し述べている。図書館におけるコミックの扱いを考える上で欠かせない「バイブル」と評す声がある<sup>2)</sup> など、同書をコミックが利用者ニーズの高い特殊な資料であることをアメリカ図書館界に認識させたきっかけとなったと捉えられる。

*Comic Librarianship* の刊行から今日に至るまで、アメリカの図書館界ではコミックを扱った雑誌記事や図書がコンスタントに発表されている。雑誌記事では、逐次刊行物の専門誌である *Serials Review* が、1998、1999年にコミックに関する一連の論稿を掲載している<sup>4)</sup>。図書では、Goldsmith による *Graphic Novel Now*<sup>7)</sup> が2005年に、Phoenix による *Maximizing the Impact of Comics in Your Library*<sup>9)</sup> が2020年に刊行されている。これらの雑誌記事や図書は、その多くがコミックに馴染みのない図書館員に向けた入門的な内容である。また、ワシントン州立大学のグラフィックノベルプロジェクトを取り上げた論稿<sup>10)</sup> のように、先進的な図書館のコミック

の扱い方を紹介する内容も目立つ。こうした内容の傾向は最近になっても変わらない。

さて、“図書館がコミックを取り入れる”と一口にいても、コミックにはそれ以外の図書とは異なる特性があり、それゆえ図書館がコミックを所蔵し提供しようとするとき様々な問題に直面する。どのような作品を所蔵すべきかという「選書の問題」、独自の流通ルートがあるコミックをどのように集めるかという「収集の問題」、簡易な製本や材質で作られがちなコミックをいかに保存するかという「保管の問題」などがまず思い浮かぶが、近年特に注目を集めているのが、コミックをどのように書架に排架し目録データを作成するかという「資料組織化の問題」である。

「資料組織化の問題」が注目されるのは、図書館資料としてのコミックが一般化し、図書館における所蔵数が増えたことに要因があると考えられる。所蔵数が増えたことで、コミックに対する検索やアクセス可能性を高める必要が出てきたのである。コミックは、出版形態や読者ニーズの点で特殊な性質をもっており、一般書と同様の組織化手法ではコミックならではの性質を十分に活かすことができない。ここに、コミックの資料組織化の難しさがある。

本稿は、コミックの「資料組織化の問題」を取り上げ、アメリカの図書館界におけるこれまでの議論を整理する。アメリカの図書館のコミックに関する文献にもとづいて、図書館におけるコミックの組織化にはどのような課題があるのか、コミックのアクセス可能性を向上させるにはいかなる組織化手法を取るべきと考えられているか、に関する知見を整理する。

本稿は、アメリカの図書館界での議論を対象としているが、日本の図書館や図書館情報学研究所の参考となることを意図している。日本においてもコミックを所蔵する図書館は静かに増えており、アメリカの図書館と同様の課題に直面しているところもあると考えられる。しかしながら、アメリカでのコミック組織化の議論は、我が国ではほとんど知られていない。コミック活用で先を行くアメリカ図書館界の知見を整理することで、日本の図書館におけるコミックの組織化や図書館情報学におけるコミック研究の一助としたい。

なお、コミックには、アメリカの「アメリカンコミック」、フランス語圏の「バンドデシネ」、日本の「漫画」など様々な種類がある。さらに「アメリカンコミック」は、「コミックブック」、「グラフィックノベル」、「コミックストリップ」などの種類に分けられる。しかし、本稿ではこれらの種類を特に区別せずに、「コミック」という用語で示すこととする。なぜなら、「コミック」や「グラフィックノベル」などの用語は現時点では定まった定義がなく、本稿が対象とした関連文献において様々な意味合いや範囲で用いられているからである。関連文献の中には同一論文の中で定義に混同がみられるものもあり、本稿において定義の統一化を図るのは困難と判断した。ただし、本稿での用語法の目安として、第1表にコミックの種類を整理した。本稿では、種類を限定して述べる必要がある場面では第1表に整理した種類名を用いた。それ以外の一般的な議論や複数の種類のコミックを扱う議論においては「コミック」という用語で表現した。

第1表 コミックの種類\*

<p>アメリカン コミック American Comics</p>	<p>アメリカで作られ出版されるコミック。「コミックブック」と呼ばれる。日本ではしばしば「アメコミ」と略され、『スーパーマン』『バットマン』などのヒーロー作品が有名だが、それ以外のジャンル（ホラーや恋愛など）も存在する。</p> <p>一般的に、「シリーズ」と称する、32頁程度のフルカラーの冊子として毎月逐次刊行される（日本の漫画雑誌とは異なり、この逐次刊行物に複数の作品が連載されることはない）。一部の人気エピソードは、まれに「トレーダーペーパーバック」という単行書に再編集され刊行される。主なコミック出版者にはDCとMarvelがあり、そこでは作品ごとにチームを編成してコミックを製作している。製作チームは大規模で、原作脚本を書くライター、作画を担当するアーティスト、吹き出しの文字を書くレター、表紙を描くカバーアーティスト等からなり、分業制で作品を作っている。</p> <p>現時点で決まった定義はないが、上記の「コミックブック」だけでなく「グラフィックノベル」や「コミックストリップ」を含めて称されることが多い。</p>
<p>グラフィック ノベル Graphic Novels</p>	<p>アメリカンコミックの一種で、一つの複雑な物語を扱う文学性の高い単行書コミックを指す。人により定義は異なるが、『スーパーマン』ような「コミックブック」とは、初めから単行書として発行される点、その作品単体で完結した物語である点などで異なるとして、区別して扱う人もいる。</p> <p>日本の漫画の単行本も、「グラフィックノベル」として扱われることが多い。</p>
<p>コミックストリップ Comic Strip</p>	<p>アメリカンコミックの一種で、新聞に連載されるコマ続きマンガを指す。</p>
<p>バンドデシネ Bande Dessinée</p>	<p>フランスやベルギーなどのフランス語圏で作られ出版されるコミック。『タンタンの冒険』が有名。アメリカンコミックに比べると製作チームは小規模で、多くの場合、ライターとアーティストの2人組で作られる。伝統的には「アルバム」と呼ばれるハードカバー単行書として出版されてきたが、現在では様々な出版形態をとる。20世紀後半になると、芸術として認められるようになった。</p>
<p>漫画 Manga</p>	<p>日本で作られ出版されるコミック。一人の漫画家がライターかつアーティストの役割を果たしつつ、一から作品を作成する。漫画の多くは、複数の作品が載る逐次刊行物（漫画雑誌）に一定期間連載され、その後に作品ごとに単行本にまとめられ出版される。</p> <p>右から左へ読むようコマ割りがされている、モノクロ中心で吹き出しや背景線などで動きや感情を表現するなど、アメリカンコミックにはない独自のスタイルをもつ。漫画は世界中で人気がある。近年では、日本以外の国でも“漫画スタイル”の作品が作られるなど、他国のコミック文化に影響を与えている。</p>

\* Best Practices for Cataloging Comics and Graphic Novels Using RDA and MARC21 (2022) のAppendix Hの解説を基に、筆者が補記を加えて作成

## 2. 排架と分類

コミックを所蔵しはじめた図書館が最初に直面するのが、書架にどのように並べるかという排架の問題である。多くの図書館は排架の第一排列要素に分類を用いているため、排架の問題は分類の問題と重なる。コミックの排架と分類は、アメリカの図書館にコミックが取り入れられはじめた当初から、図書館ごとに様々な方法が考案されてきた。そのため、今でも様々な方法が存在し標準化が難しい状況となっている<sup>11)</sup>。

この種の問題を扱った文献<sup>12) 13) 14)</sup>を整理すると、考案されている排架と分類の方法は主に次の3種類に分けられる<sup>15)</sup>。

### 方法1：全てのコミックに、DDCの分類記号741.5を与える

アメリカの図書館で一般的に使われている「デューイ十進分類法 (Dewey Decimal Classification: DDC)」には、コミックを収める分類記号として「741.5 (Cartoons, Caricatures, Comics)」が設けられている。方法1は、この記号を素直に使うやり方である。この方法を取れば、コミックを図書館コレクションの一部として位置付け、かつ一か所に集めて排架することができる。

ただし、この方法には問題点も指摘されている。741.5は、7 (Arts and Recreation) の下位項目であり、すなわちコミックを芸術・娯楽の一種として位置付けている。コミックの中でも特にグラフィックノベルは、名前に“ノベル”とあるように、文学としてみなされることが多い。そのため、図書館員の中には、グラフィックノベルは7 (Arts and Recreation) ではなく8 (Literature) の下位項目とすべきと主張する人がいる。また、コミックの中には、哲学や経済を主題とする芸術・娯楽とは考えにくいものが存在しており、方法1ではこれらの芸術・娯楽以外の主題を十分に表現することができない。

### 方法2：コミックのうちフィクションのものには741.5を与え、ノンフィクションのものにはそれぞれの主題の分類記号を与える

例えば、スパイダーマンなどのフィクションのコミックには741.5を、経済学を扱ったコミックには経済学の分類記号である330を付与する方法である。芸術・娯楽以外を主題とするノンフィクションのコミックを適切に表現できるという点で、方法1より優れている。

ただし、この方法を取るとコミックを一か所に集めて排架することができず、まとめてブラウジングできない点で不便である。図書館では、一般に、DVDなどの視聴覚資料はフォーマットごとにまとめて排架されるため、コミックも、コミックというフォーマットを優先してまとめて排架すべきと考える図書館員もいる。

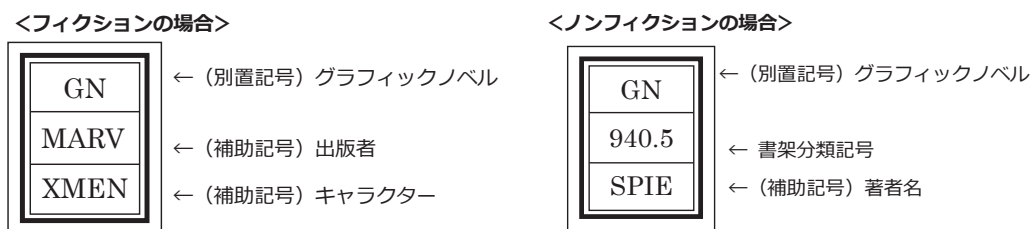
### 方法3：DDCを第一排列要素に使用しない、コミック独自の所在記号体系を作る

DDCを第一排列要素に使わない方法である。この方式を取ると、コミックをそれ以外の資料と分けて扱うことになり、図書館コレクション全体の中にコミックを位置付けることができない。しかし、コミックの集中的な排架とコミック読者が求める特殊な排列順を実現できる。

この方式は、各館で独自の所在記号体系を作るものであるため、具体的なやり方は様々である。コミック専門書店の排架法を参考に、排列要素に出版者やキャラクター名を採用するものが

目立つ。例えば、テキサス州のルボック公共図書館では次のような独自体系を作成している（第1図参照<sup>12)</sup>。

- 第一排列要素に、「GN」「CB」などの別置記号を付与する。
- さらに第二排列要素として、フィクションのコミックの場合は、出版者名による補助記号を付与して排架順を体系化する。これは、コミック読者がタイトルや著者よりも、DCやMarvelといった出版者で作品を探す傾向があるからである。他方、ノンフィクションのコミックの場合は、そのコミックの主題に該当する分類記号を用いる。
- フィクションのコミックの第3排列要素には、キャラクター名を用いる。タイトルを用いないのは、アメリカンコミックは継続的に出版されるうちにタイトルが揺れることが珍しくなく、タイトルがシリーズの同定識別キーとならないからである。



第1図 ルボック公共図書館におけるコミックの所在記号<sup>12)</sup>

コミックの分類と排架の問題が顕在化したことを受けて、2006年2月、DDCの分類表が改訂されている<sup>16)</sup>。この改訂によって、DDCの741.5 (Cartoons, Caricatures, Comics) は、細かく展開できるようになった。例えば、コミックの中でも新聞の連載漫画(コミックストリップ)や一コマ風刺漫画などは741.56に、コミックブックやグラフィックノベルなどは741.59に収めることができ、コミックの種類による細分が可能となった。さらに741.56および741.59以下は、補助表を用いて製作国・地域によりさらに細かく区分できる。例えば、アメリカのコミックストリップである『ピーナッツ』には741.56973、アメリカのコミックブックである『スパイダーマン』には741.5973、日本の漫画である『鉄腕アトム』には741.5952、ベルギーのバンドデシネである『タンタンの冒険』には741.59493を与える<sup>17)</sup>。この改訂によって、DDCをそのまま使用しても、コミックの種類や製作国・地域を区別した排架が可能になったといえる。

しかしながら、このDDCの改訂について、根本的な問題を全く解決していないと厳しく評価する声も上がっている。コミック(特にグラフィックノベル)を7 (Arts and Recreation)の下位項目ではなく8 (Literature)の下位項目として扱うべきだという問題点が解決されていないからである。このDDC改訂を不十分として、コミックの排架にはDDCを使わず、方法3に相当する独自の所在記号体系を構築すべきだと主張する図書館関係者にPhoenixがいる。彼は、2020年刊行の著書の中で、このDDC改訂を不十分としたうえで、コミック専用の所在記号体系を作ることを勧めている<sup>2)</sup>。さらに、実際に独自の体系を使っている公共図書館の事例を紹介している。



排架と分類にかかわる問題点は、上で挙げた以外にもいくつも存在する。これらの問題点は、主にコミックの出版形態の特殊さに関係している。例えば、コミックブックは一般に毎月逐次刊行されるが、その巻号と出版年月、ストーリーの順序が一致しないことが多々あり（例：前日譚が0号として本シリーズ終了後に刊行される）、受入順で排架をするとストーリーの前後関係と一致しなくなってしまうという問題点がある<sup>4)</sup>。また、まれに出版者が途中で変わったり複数の出版者から刊行されたりする作品があり、出版者を排列要素に加えてしまうと、こうした作品を書架で集中させることができない<sup>2)</sup>。同じキャラクターが登場する通常シリーズとリミテッドシリーズ、スピンオフシリーズをどのように関連づけて排架するかという点も悩ましい。さらに、日本の漫画の翻訳版を所蔵する図書館があるが、漫画には右開きで製本されたものがあり、左開きのアメリカンコミックと並べて排架すると違和感が出てしまう<sup>8)</sup>。こうした細かな問題点を全て解決した方法は現時点では存在せず、個々の図書館での工夫に任せられているのが現状である。

### 3. 目録データの作成（記述目録法）

コミックを図書館資料とするには、コミックの目録データを作成しOPAC等で検索可能にする必要がある。歴史を振り返ると、アメリカの図書館がコミックを所蔵しはじめた当初、コミックの目録データを作成する図書館はまれであった。Scottは、1990年刊行の著書 *Comic Librarianship* の中で、コミックに対して体系的な目録を作成しているのはミシガン州立大学図書館のみだと述べている<sup>6)</sup>。ミシガン州立大学図書館におけるコミックの目録作成法は同書の中で具体的な手法が紹介され、それ以降に目録作成をはじめた他館に影響を与えた。他方、アメリカ議会図書館は、コミック自体は1990年以前から所蔵していたものの、長い間、コミックを整理基準でいう「最低レベル」と位置づけて目録データは作成せず、OPAC外のインベントリリストを使ってごく簡易に管理するのみであった。アメリカ議会図書館がコミックの目録データを作成するようになったのは、1994年以降である<sup>18)</sup>。

アメリカの図書館におけるコミックの目録作成の実態は、2008年のFeeによる調査から伺い知ることができる。この調査は、カタログラーを対象に、自館におけるコミックの目録作成についてアンケートしたものである。調査結果は、次のとおりであった<sup>18)</sup>。

- ・コミックに対しては目録レコードを作成していない（1名）
- ・コミックのコレクション全体を示す目録レコードを一つのみ用意し、各巻・作品の詳細はOPAC外のインベントリリストで管理する（2名）
- ・OCLCによるコピーカタログリングでコミックの目録レコードを作成する（8人）

なお、コピーカタログリングと回答した8人のうち、コピーした目録レコードにコミック検索のための詳細なデータ（後述するジャンル語やキャラクター名など）を追記していると答えたのは1名のみであった。この結果から、コミックの目録作成には、一般書に比べて簡易な方法が取られる傾向があることが伺える。

現在（2022年）のコミックの目録作成は、図書館の種類、利用者ニーズ、採用している目録

システム等を反映し、図書館により異なる方法が採用されている<sup>11)</sup>。どの図書館にも適用できる標準的な方法がある訳ではない。

ただし、これまでの各館による試行錯誤の蓄積を土台に「ベストプラクティス」と呼ばれる方法が存在している。アメリカ図書館協会に設置された「グラフィックノベルとコミックのラウンドテーブル (Graphic Novels and Comics Round Table: GNCRT)」は、2022年9月に、コミックの目録作成法に関する事例を整理しベストプラクティスとしてまとめた報告書を発表している<sup>11)</sup>。この報告書は、GNCRT に時限的に設けられた「メタデータ目録作成委員会 (GNCRT Metadata and Cataloging Committee)」が作成したもので、MARC21 のフィールド別に推奨される目録作成法が詳細かつ具体的に説明されている。ベストプラクティスに相当する推奨方法だけでなく、目録作成に当たって注意すべき点や目録データの具体例も示されている。この報告書が、現時点(2022年)では、コミックの目録作成法に関してアメリカ図書館界の知見をまとめた最も参考になる情報源といえるだろう。

なお、アメリカの図書館が所蔵するコミックの中心は、日本でいうアメリカンコミックである。そのため、GNCRT 報告書で示された目録作成法はアメリカンコミックに対するものと考えられる。アメリカンコミックの中でも「コミックブック」は、一般に、“シリーズ”<sup>19)</sup>と呼ばれるフルカラーの小冊子として継続的に刊行される(日本の漫画とは異なり、この逐次刊行物に複数の作品が連載されることはない)。一部の人気エピソードは、まれに「トレーダーペーパーバック」という単行書に再編集され刊行される。また近年では、最初から単行書として刊行される「グラフィックノベル」が盛んに出版されており、所蔵する図書館も増えている。

継続資料なのか単行資料なのかどちらともいえない特殊な出版形態のため、アメリカンコミックの目録作成に当たっては、目録レコードをどの単位で作成するかをまず決める必要がある。GNCRT 報告書は、この作成単位について次の3つの選択肢を提示している<sup>11)</sup>。

- ① シリーズを一つの逐次刊行物として扱って目録レコードを作成する
- ② シリーズを多巻ものの単行書として扱って目録レコードを作成する
- ③ シリーズを構成する各巻・単行書の単位で、個別に目録レコードを作成し相互に関連づける

GNCRT 報告書以外の関連文献をみると、逐次刊行性を重視して①を採用する図書館が多く、したがって、目録作成も逐次刊行物の目録規則を用いて行われることが多い。ただし、コミックブックやグラフィックノベルには一般的な逐次刊行物とは異なる特徴があり、逐次刊行物の目録規則をそのまま適用するだけでは不十分である<sup>20)</sup>。そのため、コミックコレクションに力を入れている図書館では、手間がかかる③で目録作成を行うところも珍しくない。

目録作成において問題となる、コミックならではの特徴とは具体的に何か。以下に、この特徴と目録作成上の対応策(と考えられているもの)を整理する。

- タイトルの揺れ：コミックブックの場合、表紙(カバー)に書かれたタイトルに、継続刊行されるうちに細かな変更が加えられることが珍しくない。「英米目録規則第2版 (Anglo American Cataloguing Rules, 2nd edition: AACR2)」は本タイトルの優先情報源を表紙としているが、コミックブックの場合、表紙のタイトルに揺れがあり本タイトルの情報源に



は適していない<sup>4)</sup>。他方、表題紙裏にある出版情報のページ (indicia) に書かれたシリーズのタイトルは比較的一貫性がある。GNCRT 報告書は、このシリーズのタイトルを本タイトルに記録することを推奨している<sup>11)</sup>。また、コミックブックにはオリジナルシリーズで使われていたタイトルが存在しており、オリジナルのタイトルを手掛かりに本を探す愛好家もいる。Fee は、AACR2 の規定とは異なるが、オリジナルのタイトルを統一タイトルとして目録レコードに記録することを提案している<sup>13)</sup>。

- 出版者の重視：コミック読者には、DC や Marvel といった出版者で次に読む作品を探す嗜好がある。AACR2 では出版者は重要なアクセスポイントとされていないが、コミックでは出版者をアクセスポイントに設定すべきである。サンディエゴ州立大学図書館は、こうした読者ニーズに対応するために、通常の図書館管理システムとは別にコミックコレクション専用の資料管理・目録システムを構築している<sup>21)</sup>。
- チームによる製作：アメリカンコミックは、作品ごとにチームを編成して製作される。日本の漫画家のように特定のシリーズを一から作り上げる作家がいる訳ではなく、同一シリーズであっても作品によって製作チームのメンバーが変わり得る。アメリカンコミックの製作チームは大規模で、原作脚本を書くライター、作画を担当するアーティスト、吹き出しの文字を書くレターラー、表紙を描くカバーアーティスト等からなり、分業制で作品が作られている。つまり、アメリカンコミックでは著者に該当する人が複数存在しており、図書館員には責任表示や基本記入にどの役割の人を記録するかの判断が求められる。Tarulli は、AACR2 の規定では基本記入に主たる著者を記録することになっているが、アメリカンコミックの読者が本を探す際に使うアクセスポイントはライターではなくアーティストであると指摘している<sup>12)</sup>。Fee は、AACR2 の規定からは外れるが、製作チームのメンバー全てを責任表示に記録することを提案している<sup>13)</sup>。
- 刊行順序とストーリー展開の不一致：人気のあるコミックブックのシリーズでは、しばしば、巻号や刊行順序がストーリーの展開と一致しない。ストーリーの展開に合わせた順序をつけるには、詳しい図書館員に尋ねたり、ウィキペディアの情報を参考にしたりする<sup>13)</sup> など、通常目録作成とは異なる情報源を活用する必要がある。
- レーティング：アメリカ社会ではコミックに対する規制や年齢による読者の選別が行われてきた歴史があり、コミックの多くは表紙や裏表紙にレーティング (対象年齢など) の情報を掲示している。このレーティングのデータを目録レコードに注記 (Note) として加えている図書館がある<sup>12)</sup>。この種のデータは一般書に対してはあまり付与されないが、Goldsmith は、特に公共図書館や学校図書館の目録において有効であると述べている<sup>8)</sup>。

近年、アナログからデジタルへ情報環境が変化したことを受けて、図書館の目録作成法それ自体の見直しが行われている。そして、その見直しの成果として「書誌レコードの機能要件 (Functional Requirements for Bibliographic Records : FRBR)」をはじめとする新たな理論や手法が考案され実際に用いられるようになってきている。コミックの目録作成法についても、この新しい理論や手法を導入する試みが進んでいる。例えば Fee は、FRBR の枠組みを活用してコミッ

クの目録データを作成する手法を説明している<sup>18)</sup>。これは、著作—表現形—体现形—個別資料の4実体ごとにそれぞれ目録レコードを作成し各レコードをリンクでつなげることで、シリーズとして出版されるアメリカンコミックの内容的な階層性を表現するという手法である。

#### 4. 主題件名とジャンル語

コミックを探す手がかりは、前節で取り上げたタイトルや出版者ばかりではなく、作品に登場するキャラクター名（例：スーパーマン、アベンジャーズ）やジャンル（例：ヒーローもの、ファンタジー、ミステリー）も使われる。キャラクター名やジャンルなどは一般書の目録データにはあまり含まれていない情報である。

*Comic Librarianship*以降ずっと、コミックの組織化を取り上げた様々な文献が、キャラクターやグループの名前を件名標目に加えることを推奨している<sup>6) 11) 13)</sup>。最近では、アメリカ議会図書館が2022年5月に目録作成マニュアルを改訂し、この種のデータを積極的に記録する方針を取っている<sup>11)</sup>。「アメリカ議会図書館件名標目表 (Library of Congress Subject Headings : LCSH)」にはコミックに関係する形式細目「Comic books, strips, etc.」が用意されており、キャラクター名はこの細目と組み合わせる形で件名標目となる（第2図）。GNCRT 報告書は、名称典拠ファイル共同作成プログラム (Name Authority Cooperative Program : NACO) の参加館に対して、キャラクター名やグループ名で名称典拠ファイルを作成することを勧めている<sup>11)</sup>。

600 00 \$a Babymouse \$c (Fictitious character) \$v Comic books, strips, etc.  
 600 00 \$a Babymouse \$c (Fictitious character) \$v Juvenile fiction  
 600 00 \$a Babymouse \$c (Fictitious character) \$v Fiction

第2図 キャラクター名による件名標目の例<sup>11)</sup>

コミック読者は、ヒーローもの、ファンタジー、ミステリーといったジャンルを手掛かりに作品を探すことが多い<sup>8)</sup>。アメリカ議会図書館が構築する「ジャンル・形式用語統制語彙 (Library of Congress Genre/Form Terms : LCGFT)」<sup>22)</sup>には、「Fantasy comics」「Detective and mystery comics」「Science fiction comics」といったコミックのジャンルを示す語がいくつか含まれている<sup>11)</sup>。コミックに関するジャンル語は、LCGFT以外にもゲティ研究所 (Getty Research Institute) の「Art & Architecture Thesaurus (AAT)」などにも含まれており、GNCRT 報告書はそれらの既存の統制語を利用することを推奨している（第3図）。

655\_7 \$a Horror comics. \$2 lcgft  
 655\_7 \$a Romance comics. \$2 lcgft  
 655\_7 \$a Manga (comic books). \$2 aat

第3図 ジャンル語の例<sup>11)</sup>

## 5. おわりに

本稿は、コミックの「資料組織化の問題」を取り上げ、アメリカの図書館界での議論を扱った文献を整理した。これにより、図書館におけるコミックの組織化にはどのような課題があるのか、コミックのアクセス可能性を向上させるにはいかなる組織化手法を取るべきかについて、アメリカ図書館界のこれまでの知見をある程度示すことができたと思える。

興味深いことに、コミックの組織化を扱った文献では、しばしば、ベストプラクティスを共有することの必要性が指摘されていた<sup>5) 7) 9)</sup>。そして実際に、多くの文献がベストプラクティスに相当する実践報告や事例紹介を行っていた。アメリカの図書館界には、関係者間で評価されている事例を広く共有しその事例で採用されている手法をベースに各図書館がさらに工夫を積み重ねていくことが最終的な問題解決につながる、という認識があるのだろうと推測される。先述したGCNRTによる報告書 *Best Practices for Cataloging Comics and Graphic Novels Using RDA and MARC21*<sup>11)</sup> は、タイトルに「ベストプラクティス」という言葉が含まれており、まさにこの認識を裏付けていると思われる。

ひるがえって日本の図書館界はどうであろうか。日本では、ごく少数の漫画専門図書館を除いて、公共図書館や大学図書館におけるコミックの組織化の事例報告はほとんどみられない。コミックの組織化について議論されること自体が少ない。日本の公立図書館の9割以上が漫画を所蔵しているという2016年の調査報告があるが<sup>23)</sup>、コミックの組織化については図書館界における検討の遡上にも上がっていない状況といえる<sup>24)</sup>。

本稿で整理したアメリカの図書館界の手法は、アメリカンコミックを対象としたものが中心であった。当然のことながら、日本の文化と称されることも多い漫画は、アメリカンコミックとは異なる特性をもっている。そのため、本稿で示した組織化の手法を日本の図書館にそのまま適用したとしても高い効果はあがらないだろう。日本の図書館界においても、コミック、特に漫画に対する組織化の問題について検討や実践が進むことが期待される。

## 謝辞

本研究はJSPS 科研費 JP18K11996 の助成を受けたものです。

## 〔注・参考文献〕

- 1) Young Adult Library Services Association. YALSA names 2022 Great Graphic Novels for Teens. <https://www.ala.org/news/press-releases/2022/02/yalsa-names-2022-great-graphic-novels-teens>, (accessed 2022-10-12).
- 2) Phoenix, Jack. "Making comic accessible". Maximizing the Impact of Comics in Your Library. Library Unlimited, 2020, p. 93-127.
- 3) 椎名ゆかり. アメリカの図書館はいかにマンガを所蔵するようになったか：大衆文化の文化ヒエラルキーの変遷. 情報の科学と技術. 2014, Vol.64, No.4, p. 146-152.
- 4) Ellis, Allen; Highsmith, Doug. About face: Comic books in library literature. *Serials Review*, 2000, Vol.26, No.2, p. 21-43.

- 5) Lavin, Michael R. Comic books and graphic novels for libraries: What to buy. *Serials Reviews*, 1998, Vol.24, No.2, p. 31-45.
- 6) Scott, Randall W. *Comic Librarianship: A Handbook*. McFarland, 1990, 188p.
- 7) Francisca, Goldsmith. *Graphic Novel Now: Building, Managing, and Marketing a Dynamic Collection*. American Library Association, 2005, 113p.
- 8) Goldsmith, Francisca. "Can readers find your library's graphic novels? : Classification and descriptive cataloging". *Graphic Novel Now: Building, Managing, and Marketing a Dynamic Collection*. American Library Association, 2005, p. 52-62.
- 9) Phoenix, Jack. *Maximizing the Impact of Comics in Your Library*. Library Unlimited, 2020, 127p.
- 10) O'English, Lorena; Mtthews, Gregory J.; Lindsay, Elizabeth Blakesley. *Graphic novels in academic libraries: From maus to manga and beyond*. 2006, *Journal of Academic Librarianship*, Vol.32, No.2, p. 173-182.
- 11) *Graphic Novels and Comics Round Table Metadata and Cataloging Committee*. *Best Practices for Cataloging Comics and Graphic Novels Using RDA and MARC21*. American Library Association, 2022, 164p. <https://alair.ala.org/handle/11213/18623>, (accessed 2022-10-05).
- 12) Tarulli, Laurel. "Cataloging and problems with dewey: Creativity, collaboration and compromise". *Graphic Novels and Comics in Libraries and Archives: Essays on Readers, Research, History and Cataloging*. Weiner, Robert ed. McFarland & Company, 2010, p. 213-221.
- 13) Fee, William T.B.. Where is the justice... league?: *Graphic novel cataloging and classification*. *Serials Review*, 2013. Vol.39, No.1, p. 37-46.
- 14) Weiner, Robert. "An Example of an in-house cataloging system". *Graphic Novels and Comics in Libraries and Archives: Essays on Readers, Research, History and Cataloging*. Weiner, Robert ed. McFarland & Company, 2010, p. 222-225.
- 15) この他に、「アメリカ議会図書館分類法 (Library of Congress Classification: LCC)」を使う方法がある。PCCはDDCに比べてコミックを細かく分類できるため、FeeをはじめとしてPCCの使用を勧める図書館関係者も存在する<sup>13)</sup>。
- 16) OCLC. "Comic-book conundrum: Cracked". *The Dewey Blog*. 2006.02.02, [https://ddc.typepad.com/025431/2006/02/comicbook\\_conun.html](https://ddc.typepad.com/025431/2006/02/comicbook_conun.html), (accessed 2022-10-05).
- 17) OCLC. *Sample Title/DDC List: 741.5 Comic books, graphic novels, fotonovels, cartoons, caricatures, comic strips*. 2014, 3p. <https://www.oclc.org/content/dam/oclc/dewey/discussion/papers/741SampleList.pdf>, (accessed 2022-10-05).
- 18) Fee, William T.B.. Do you have any ditko?. *Serials Review*, 2008. Vol.34, No.13 p. 175-189.
- 19) アメリカンコミックの“シリーズ”は、継続するコミックタイトルを指す。目録用語としての“シリーズ”とは指す対象が異なるので、注意が必要である。
- 20) 古野朋子. アメリカの図書館におけるコミック事情. *カレントアウェアネス*. 1999, No.237, <https://current.ndl.go.jp/cal1255>, (accessed 2022-10-05).
- 21) Culbertson, Anna; Jackson, Pamela. *Comics and the modern library catalog: New rules for breaking the rules*. *The Serials Librarian*, 2016, Vo.71, No.3-4, p. 162-172.
- 22) 柴田洋子. *ジャンル・形式用語の動向：米国議会図書館の取組みをはじめとして*. *カレントアウェアネス*, 2016, No.327, <http://current.ndl.go.jp/cal1869>, (accessed 2022-10-16).
- 23) 安形らによる2016年の調査によると、漫画を1冊も所蔵していない公立図書館は、調査対象とした4,681館のうち279館(5.9%)のみであった。安形輝ほか. *日本の公立図書館におけるマンガの所蔵状況*. *三田図書館・情報学会研究大会発表論文集*, 2016, p. 25-28.
- 24) 日本におけるコミックの組織化に関わる話題として筆者が注目しているのは、国立国会図書館のジャンル・形式語の新設である。同館は、典拠データの種類であるジャンル・形式用語に「漫画」を新設し、2021年1月から同館の目録データに適用を開始した。漫画を示す日本十進分類法の分類記号は726.1であるが、哲学や経済などの特定主題を扱った漫画はそれぞれの主題に該当する分類記号が付与される。このジャンル・形式語は、付与された分類記号によらず全ての漫画に対して付与される。木村千枝. *Web NDL Authoritiesの拡充：著作とジャンル・形式用語*. *カレントアウェアネス-E*, 2022, No.435, <https://current.ndl.go.jp/en/print/book/export/html/46190>, (accessed 2022-10-14).